

## 本県発・コメの初冬直まき栽培

# 新技術 高1挑む



矢巾町開野々の田んぼで「新しい技術に挑戦し、若い力で農業を明るくしていきたい」と語る阿部倫太郎さん

初冬にコメの種もみを直接まき、本県発の栽培技術を試そうと、挑戦を始めた高校1年生がいる。盛岡農高に通う阿部倫太郎さん。農閑期の作業で負担軽減が期待でき、研究を進める自治体などに自ら協力を仰いだ。専業農家を継ぐのが夢で「新しい栽培を学び、若い力で農業を明るくしたい」と目標を語る。

### 盛岡農の阿部さん

雪化粧した早稲田を渡る矢巾町開野々。今月中旬、下船産米、開墾に生育す直まき栽培に適した農機を持ちあわせたポタ（花菱、10月ごろの収穫を思込）の田んぼに消毒剤をコートティングした一ひとめぼ

## 専業農家を継ぐのが夢

れ一の種をまいた。雪の術だ。岩手大農学部の下野教授(50)「作物学」が中々となつて研究し、県内外で普及し始めた。農閑期となる春の作業を選ばれるほか、育苗や移植にかかるとコストの削減と

コメの初冬直まき栽培。農に目を移す一般的な手法に比べて、種もみを直接まき、播種する際の土壌温度を一定に保つておくことが、約30人が栽培に取り組み、県内各地で実践されている。

向ける方針で、開野々の田んぼを借り、種もみを直接まき、播種する際の土壌温度を一定に保つておくことが、約30人が栽培に取り組み、県内各地で実践されている。

作業時間を短縮できる利点がある。雑草対策も栽培管理に改良が必要だ。阿部さんは新しい技術を新聞で知り興味を持った。自ら教授や関係機関に働きかけ、営農計画を立て準備した。高校生の挑戦は初めてと、下野教授は高学年で担い手が訪れていく中、次を担う世代に活用してもらえればうれしい。彼の挑戦をサポートした。

「農業は技術や機械の進化が面白い。新しいとた野菜やコメを栽培する農家に生まれた阿部さん。幼い頃から父の修一さん(75)や祖父が農作業に励む姿を見て育ち、手伝う中で「真べ」と思い始める。

※岩手日報 令和5年11月27日付  
 岩手日報社の許諾を得て転載しています  
 ※無断転載・複写を禁じます